



## ロータリーは 分かちあいの心

2007～2008年度  
国際ロータリーのテーマ  
ウィルフリッドJ.ウィルキンソン

会長／関野政人 幹事／山本讓二

DISTRICT 2510 JAPAN

# 留萌ロータリークラブ 会報

2007▶2008 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

みんなロータリーが好きだから  
出会いを創造し活性しよう

## プログラム

- 本日  
討論会  
「一本音で語ろうーテーブル討論会」
- 次週予定

ご夫人誕生日  
3月1日 松田 陽子

No. 2316  
第31回 2月27日



前  
例  
会

会員総数	49名
出免会員	4名
欠席会員	13名
出席率	71.11%

前  
々  
会

第28回 2月6日	
欠席会員	16名
メイクアップ	3名
修正出席率	71.74%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

## 会長報告 .....

- 社会奉仕委員会が毎年参加している「留萌市海水浴場クリーン作戦」が北海道社会貢献賞を受賞されました。

- 3) 留萌市より平成20年度及び平成21年度開催予定の各種イベント調査票がきております。次年度幹事にお渡します。

### 会報受領先

・砂川 R C No.1849号～No.1851号

## 幹事報告 .....

- 1) 国際ロータリー第2510地区第7グループの千歳 R C より、創立40周年記念式典及び祝賀会の案内が届いております。開催日は2008年4月27日(日)午後3時より、場所はANAクラウンプラザホテル千歳です。参加希望者は幹事まで連絡ください。締め切りは3月31日までです。
- 2) 国際ロータリー日本事務局より下期の人頭分担金等の領収書が届いております。

### ゲスト

北海道議会議員 石塚 正寛様

## 3分間情報 .....

### 会員研修委員会

河部副委員長

### ニコニコ箱(BOX)について -その3-

奉仕活動の実践が低調だと、ニコニコが消化できずに段々と繰越金が増えてきます。その一方でクラブの本会計は逼迫しているので、ニコ

ニコ会計から何らかの名目をつけて、本会計に戻入して消化しているクラブがかなりあるようです。誕生祝の品物は本会計の親睦活動委員会の費用で購入するのだから、誕生祝のニコニコは本会計で使っても良い…等々、いろいろと都合のいい解釈はつくものです。

しかし、如何なる理由をつけようとも、ニコニコ会計を本会計に戻入することは好ましい方法ではありません。ニコニコは対社会的な奉仕活動のために集めている寄付金ですから、ロータリアンがその受益者になることはできません。ニコニコを本会計に戻入することは、その額の多？は別にして、ロータリアンが受益者になることを意味します。

クラブの運営費、すなわち本会計は会員が平等に負担して賄わなければなりません。会費負担の平等性が保たれているからこそ、クラブ内における会員の平等性も保たれるのです。ニコニコは対社会的活動に賛同する人が任意に、金額もばらばらに拠出しているわけで、会員が平等に106拠出しているわけではありません。従ってこれを本会計に流用することは、会費負担の平等性を崩すことにもなるのです。本会計が不足ならば、取るべき方法は、経費削減か会費値上げしかありません。

目的別の募金を行う諸外国の方式と、目的を定めずに、いろいろな機会を捉えて募金を行う日本の方式の何れが良いかについては判断に悩むところです。いろいろな機会を捉えてあまり意識せずに募金が集まるのがニコニコの長所ですが、奉仕活動？践の目的を定めて、そのために計画の立案、資金調達、事業の完結に至る一連の流れの中で？施す目的別募金の方が合理的な感じがしますが、皆さまはどのようにお考えになりますか。

(「ロータリー探究」から)



## ニコニコBOX……………

- ・創立47周年記念例会下品でどーもすみません  
行徳親睦副委員長
- ・創立47周年記念夜間例会DVDをいただきました  
田中、山本会員
- ・DVD、写真いただきました  
関野会長
- ・ちょっと良い事がありました  
武井会員

前回 750,000円  
今回 5,000円  
累計 755,000円



## プログラム……………

「るもいの未来パート2」

北海道議会議員 石塚 正寛様

一昨年の8月にこの例会にてお話しをさせていただきましたが、その時は中心市街地と病院のガイドラインについてでした。今回は留萌の未来パート2という事ですが、先日も説明会がありました留萌支庁の再編計画についてお話させていただきます。

昨年11月に道は新しい支庁の姿(素案)というものを突然発表いたしました。留萌市にとって支庁再編は大変な事ですので、この計画の概要を含めてお話しを進めていきたいと思えます。計画の概要では留萌市に関係ある事として5つがあります。第1に現在ある14支庁を9つの総合振興局と5つの振興局に再編するという案です。第2にこの振興局に留萌、日高、根室、石狩の支庁が入っており、留萌支庁は道北総合振興局の出先機関として留萌振興局となります。つまり旭川の支店のようなものです。第3に留萌振興局の業務量は現行の6割程度となり、それ相応の人員削減となることです。ただ現在留萌支庁は450人位ですが、単純に4割削減ではないようです。第4が、留萌土木現業所と留萌保健所は残る。そして第5が、留萌教育局は廃止するという内容です。

これについて道議会としましては、昨年12月の定例議会で、多くの議員よりこの件について



質問が集中し、私も28項目の質問をいたしました。答弁については、とても納得できるものではありませんでした。それで道議会といたしましては、「今回の原案は関係法令との整合性にも問題があり、地方分権やその行財政効果などの点で未だ十分吟味された内容とはなっていない。改めて市長会・経済界などとの論議を十分行い、拙速な結論は避けるべき」との付帯意見を全会派一致で可決いたしました。この意味は大変大きいと思います。この中にある関係法令とは公職選挙法などで、留萌支庁は第10選挙区の中に入っており、この公職選挙法の文言を地方の諸事情にて変更するのは…というものです。また、この十分吟味されていないとは、留萌振興局になった時に、留萌の振興策はどの質問をすると何も示されないなど、曖昧な答弁が返ってくるので、経済界などとの議論を行い、結論は急がないで慎重にということです。全会一致とは自民、民主、公明、フロンティア、共産の105名全員が同じ思いだという事です。

2月4日に道議会では支庁再編に関する集中審議を実施し、7名の委員から150項目に及ぶ質問をいたしました。これに留萌からは50名を超す傍聴がありました。自民党道議(51名)は、財政再建のためには賛成、あるいは(消極的)な賛成という意見が多く、反対派は少数という印象です。道では集中審議の議論内容を整理し、2月14日に道議会自民党幹部会(支庁再編検討協議会)に提出しました。その内容は人員は3年かけて4割減らす、総合振興局に移動した人員の半分は自然減によるリストラをするという内容であり、3月議会で提出、10月に決定とい

うものでした。これに対して受け入れられないとの事になり、内々に道州制・合併の問題が落ち着いてから進めるべきで、リストラ策は各支庁で各々10~20名と進めるという事。振興策が示される10月になってから。石狩支庁をモデル地区として1~2年かけてやってみる。また道だけで考えるのではなく、有識者を交えて検討するといった考えを示しました。

今後の動向といたしましては、2月26日開催の定例道議会での支庁設置条例の提案の先送りとなりましたが、まだ予断は許されなく、今後の動きとして内容や条件の原案を基本として進むか否かのつばぜり合いはありそうです。条例提案の時期としては、6月が注意しなければなりません。2月25日に自民党の支庁制度検討協議会が開催されますので、そこで一定の方針が示されると思います。

そもそも20年前に支庁制度改革で、6つの地域生活経済圏にするということで、札幌の一極集中を防ぐという事でしたが、20年経って札幌集中が加速していますので、これらの改革案の総括検証をした上での新たな改革案を作らなければならないと思います。今後随時新たな情報がありましたら皆様にお知らせ致します。本日はありがとうございました。



職業奉仕

日本人の職業観とロータリーの職業奉仕

敦賀 刀根 莊兵衛  
(第2650地区 福井県 駅弁販売)

日本人がロータリーの職業奉仕に引きつけられるのは、昔から日本人が身につけている職業観によるところが大きい、と言われている。

実務家の田舞徳太郎氏によれば、江戸時代の思想家・石田梅岩(1685~1744)は、徳を積み自ら修業し、与えられた自分の仕事を全うすることにより、職業を通じて社会に貢献すべきと説き、それを実践したのが二宮金次郎(1787~1856)。そして梅岩に大きな影響を与えたのが、江戸時代初期の僧侶、仮名草子作家の鈴木正三(1579~1655)という。

正三は元徳川家の旗本であり、その後出家し、亡くなるまで日本各地を仏法とともに職業倫理を説いて回った。その著書『盲安杖』には、それぞれに与えられた職分に応じ、勤勉に働くことを通して心を磨き、その勤労の中にこそ生と死を超越した真実の答えが存在するという、人間の基本的な生き方が説かれている。「職業を通じて自己を磨き、職業を通じて世の中に役立つ」という日本人の職業観の原点が、ここにあると思われる。これは近江商人の家訓「買い手良し、世間良し、売り手良し」の「三方良し」の経営にもつながっていくものであろう。

このような職業観は偶然にも、初期ロータリー指導的人物シェルドンにその原型を掲げられたロータリーの標語「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」と通ずる考え方である。しかも驚くべきことは、この日本人の職業観は、シェルドンがロータリーの職業奉仕理念を発表する300年前に、すでに定着していたらしいことだ。日本のロータリアンが職業奉仕に強く引かれるのも、このような素地があったためであろう。

しかし、今や日本でも、シェルドンの論文を読まずに職業奉仕理念を語るロータリアンも多いのではないかと。国際ロータリーが世界的な人道団体へと大きく舵を切る中、職業奉仕こそ、時代を超えた普遍的な大切な価値観であることを、日本から世界へ発信する時期に来ているのではないだろうか。